

## 「防災」について議論

### ■話題提供のキーワード：(発表者) 富永敦夫さん

- ・災害ボランティア講座の経緯は災害現場の体験の報告会から始まりました
- ・“災害を知り、備える！”この大切さをみんなで学び、自助・共助・公助の仕組みづくりについて具体的に考える
- ・災害ボランティア講座は、太宰府市 NPO・ボランティア支援センターが主催し、太宰府市社会福祉協議会と防災士で構成される「防宰ボランティアネットワーク」が共催
- ・自主防災組織を中心に防災を考えていくことが大事



### ■各班の議論の様子と発表要旨 (上：5班、下6班)



- ・避難手段や避難場所の位置、避難経路など
- ・隣人との普段の関係づくり
- ・問題や悩みを持つ人たちが防災支援センターなど、まずは地域で集まり、防災士など専門性の高い人のアドバイスを受けながら、まずは市民同士で話し合うことから始めたい。その話し合った結果をもって、行政と一緒に考えていくことでより具体的な話し合いができると思われる



- ・各区の防災計画が進行するが、校区での進捗状況が把握できていない
- ・「防宰ボランティアネットワーク」による講習会で組織をひろげるところである
- ・防災会議の周知が不足している
- ・市の防災に関わる情報公開、開示が必要である
- ・居安思危(こあんしき)：安心した時に危機を思う、備えあれば憂いなし

### 次回のお知らせ

日時：3月27日(水) 19:00～21:00

場所：市役所 4階大会議室

★お問い合わせ先★ 太宰府市総務部 協働のまち推進課

TEL：092(921)2121 FAX：092(921)1601

<http://www.city.dazaifu.lg.jp/>

# 太宰府市自治基本条例(仮称) まちづくり市民会議 ニュース 14号

## 「子育て支援、地域福祉、防災」について議論しました

### プログラム

1. 開会あいさつ
2. 幹事会の報告
3. 本日のプログラム
4. 「個別の政策課題」の分析  
(1)話題提供  
(2)グループ分け  
(3)意見交換  
(4)発表
5. 閉会

### 市民会議の流れ

役割分担と進め方	
第1回	H24. 1. 16(月) ・条例の制定の手順と市民会議の役割と体制
第2回	H24. 2. 2(木) ・参加者の範囲 ・会議の進め方
第3回	H24. 3. 7(水) ・幹事会の役割と構成
第4回	H24. 4. 19(木) ・幹事会の役割と構成 ・設置

### 課題・解決方法の分析(1)

第5回	H24. 5. 24(木) ・自治基本条例制定の経緯と動機 ・市における課題や不満等
第6回	H24. 6. 29(金) ・課題や不満等の集約内容の点検
第7回	H24. 7. 27(金) ・「情報共有」の分析
第8回	H24. 8. 23(金) ・分析から条例への道筋 ・「議会」の分析
第9回	H24. 9. 26(水) ・「市民」の分析

第10回	H24. 10. 29(月) 勉強会 ・自治基本条例とは何か、なぜ必要なのか
------	---

### 課題・解決方法の分析(2)

第11回	H24. 11. 22(木) ・「市民参加の仕組み」の分析
第12回	H24. 12. 19(水) ・「職員・市長」の分析
第13回	H25. 1. 25(金) ・「行政」の分析
第14回	H25. 2. 20(火) ・「個別の政策課題」の分析

太宰府市における住民自治の基本ルールを定める『自治基本条例(仮称)』づくりの第14回まちづくり市民会議が、平成25年2月20日(火)、いきいき情報センター多目的ホールで開催され、登録総数79人中33人の参加があり、傍聴は6人でした。

今回の会議は、まず「子育て支援、地域福祉、防災」のそれぞれの分野に詳しい方に現状や活動内容、想いなど話題提供をしてもらいました。そして、参加者はそれぞれ自分が興味のある分野に分かれて、意見交換を行いました。

それぞれの分野が2つずつのグループを形成し、現状などを聞いて感じたこと、気づいたことなど伝え合い、見えてきた課題などを解決する方法・方向を考えました。いずれもこれからの太宰府市を考えていく上で、重要な内容であり、これまでと趣向を変えて、市民が話題提供をすることで、お互いの活動を知り合う場となりました。

## 「子育て支援」について議論

### ■話題提供のキーワード：(発表者) 藤本史子さん

- ・「赤ちゃんも太宰府市民」
- ・就学前の子どもの数は約 4,000 人
- ・幼稚園、保育園に行かない赤ちゃんの情報把握の法律（決まり）がない
- ・地域で子育て、子どもの見守りを推進
- ・若いお母さん（地域が苦手かもしれない）のサポートの必要性  
例えば、地域のつながりで災害時の不安解消など
- ・市民として幸せに生きたい。だから市民がもつ “使命”  
（自ら頑張る）がある
- ・市民も行政職員も連携して、気持ちよく活動できる環境づくりが必要
- ・ぼびんずの活動：託児ボランティア、ファミリーサポート、緊急サポートのアドバイザー等
- ・幼稚園の延長保育もあるが、フルタイムで働きたい親が多い
- ・子育て支援センターの活動紹介
- ・“こんにちは赤ちゃん訪問” は 96～97%の訪問率。第1子は保健士、第2子から保育士が訪問



藤本さん

### ■各班の議論の様子と発表要旨（上：1班、下2班）



- ・縦のつながり、横のつながりがうすい
- ・顔が見えるつながりを大切に
- ・お祭りなどの地域交流により、自分の地区だけでなく他の地区の子どもたちへの広がり・つながりも生まれる
- ・元保育士、元看護師など地域の人材を活用し、コミュニティで子育て支援を
- ・ゲートボールやグランドゴルフなど誰でも楽しめるスポーツや文化交流を行うことで、子どもの育成につながる
- ・待機児童の解消、緊急時の子どもの居場所はどこにあるのか
- ・「公助」はどこまでできるのか



- ・社会や家庭、地域は変わっていくのに制度（行政）は変わらぬままでは問題が続く
- ・自治会単位での実績づくり（小さい成功体験の積み重ね）から始める
- ・共働きなど多様化した親の働き方を考慮した支援を
- ・学童保育の問題は、定員数・施設の問題か、財政の問題かは、結論がでないが、行政任せでなく市民も一緒に考えていく必要がある

## 「地域福祉」について議論

### ■話題提供のキーワード：(発表者) 森口忠彦さん (太宰府市地域福祉計画の論点と課題)

- ・自助・共助・公助の関係と役割分担
- ・福祉サービス提供のための「圏域」の設定
- ・アウトリーチ体制（待ちの福祉から出向く福祉へ）
- ・見守りデータベース（高齢者や障がい者データベース）による即応体制
- ・福祉サービス受付時間の問題
- ・総合受付体制の構築
- ・実行計画の検証体制の構築
- ・福祉計画を全市で推進するための「福祉推進係(仮称)」の創設



森口さん

### (自治基本条例(仮称)へ反映すべき課題)

- ・「公助」は社会のセーフティネットであることから、福祉基盤整備に積極的に取り組む
- ・福祉のみならず各種長期計画の策定には一般公募委員を一定割合確保する
- ・長期計画の推進に当たっては一般市民参加による「計画の検証体制」を整備し、結果を市民に公表する
- ・福祉サービスの窓口受付体制(包括支援センター、社会福祉協議会)を「土日祭日」に拡大する  
電話受付体制は 365日 24時間体制とする

### ■各班の議論の様子と発表要旨（上：3班、下4班）



- ・生きていくために必要なことは「自助・共助・公助」であり、市民や行政の共通認識と役割分担が必要である
- ・一人ひとりの意識づけを行い、自分にできることをそれぞれが考えて行動することが求められる



- ・自治基本条例として昇華させることが大事である
- ・誤った制度設計にしないために評価制度の確立と市民としての主体性が重要である
- ・子どもあるいは0歳児など様々な要望があるが、それぞれの代表者による話し合いを行い、市民あるいは市と一緒に決めていく仕組みが必要である